

# 天文教育

2019

# 3

*Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy*



〈特集〉観光資源としての天文／若い世代に届ける天文教育

～中部支部会 (2018. 12. 8-9) の報告～

〈報告〉2018 年度 近畿支部会報告／天文教育論文アーカイブ

～2018～

〈連載〉オランダでの望遠鏡発明の全容

〈その他〉2019 年日本天文教育普及研究会年会のお知らせ

## 本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。

1. **原著論文**：天文教育・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主な内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクトには英文も付けてください。
2. **解説記事**：天文学や天文教育・普及に関する解説・紹介記事。分量は刷り上がりで6～10ページ程度。
3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告、また天文教育・普及に関する授業の実践例など。分量は刷り上がりで2～4ページ程度。
4. **書評**：天文学や天文教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで1ページ程度。
5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで1ページ程度。
6. **表紙の写真**：タイトルと400字以内の「表紙の言葉」とともにご投稿ください（写真のみでも構いません）。
7. **情報コーナー（各種会合・イベントの告知など）**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただく場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日（奇数月下旬）にご留意ください。

・ **締め切り**は1は原則として奇数月末日、2～7は偶数月15日。投稿先は [post@tenkyo.net](mailto:post@tenkyo.net) です。

・ **広告掲載**を希望される方は事務局 ([jimu@tenkyo.net](mailto:jimu@tenkyo.net)) までお申込みください。掲載料はB5判1ページ ¥20,000・、半ページ ¥12,000・、1/4ページ ¥7,000・、チラシの折り込み ¥20,000・です。

※本誌に掲載された記事は、当会 Web サイト (<https://tenkyo.net/>) にて PDF ファイルの形で公開を予定しております。インターネットでの公開に差し障りのある場合は、ご投稿の際にその旨ご連絡をお願いいたします。

なお、2014年9月号から、当会会員に対しては会誌発行後に速やかに、パスワード制限をかけた形で閲覧できるようにし、発行から1年経過後にパスワード制限を解除して、広く一般に公開いたします。

### 【編集委員会からのお願い】

『天文教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますよう宜しくお願いいたします。

- ・ 原稿の投稿は、原則として Microsoft Word ファイルでお願いします。
- ・ 執筆用のテンプレートがホームページ (<https://tenkyo.net/>) からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださるようお願いいたします（執筆上の留意点なども記しています）。
- ・ 十分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいただく場合もあります。
- ・ 提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。
- ・ Word 以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。
- ・ 原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記のアドレスへお願いいたします。

投稿先・質問先 メールアドレス：[post@tenkyo.net](mailto:post@tenkyo.net)

## 表紙の言葉

### はやぶさ2の空間へ

2019年2月18日5時29分、Canon EOS5D MkIII, AF-S NIKKOR 24-70mm F2.8G ED

菅平高原（長野県上田市）．撮影者：大西浩次

星空を見る楽しみは、美しい星たちの輝きを見ながら、季節や時間ごとの変化を感じ取ることにある。しかし、目で見える星たちのさらに向こうの宇宙の奥行や広がり、あるいは過去や未来の姿を想像すると、目に見える世界がより意味のある世界に見えてくる。

いま、夜明けの南東の空を見ると明るい惑星たちが並んで見える。右上より木星、土星、そうして、金星だ。この惑星たちの並びの左下には太陽が輝いているはずだ。そうして、いま、太陽のすぐ右横の（約15度離れた）黄道沿い（この写真

ではちょうど雪面との境界付近）に小惑星「リュウグウ」と「はやぶさ2」がいる。

日本の小惑星探査機「はやぶさ2」は、昨年6月に「リュウグウ」に到着し、タッチダウンの場所の選定にあたっていた。岩石だらけの「リュウグウ」への着陸は困難を極めていたが、ついに2019年2月22日にタッチダウンに成功、「リュウグウ」の岩石採取も行った。これからインパクターの実験と新しくできたクレーター内部へのタッチダウンという挑戦が待っているが、2020年には無事地球に帰ってきてほしいと思う。このような夜明けの中で、あるいは、太陽が輝いているときに、太陽の右横の「はやぶさ2」の姿を想像してみるのも、天文の楽しみの一つだろう。

（大西浩次）